

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0991300096 | | |
| 法人名 | 株式会社 TAKK | | |
| 事業所名 | 認知症高齢者グループホームさくらハウス | | |
| 所在地 | 栃木県那須塩原市高林1931番1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年8月23日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年11月10日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人アスク | | |
| 所在地 | 栃木県那須塩原市118-189 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年9月22日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で「笑顔あふれる暮らし」の理念の下、職員も笑顔で過ごし寄り添うことで、入居者の笑顔を引き出している。平均年齢86.7歳、自立歩行可能な方が少なく日常生活の支援が必要な方ばかりです。グループホーム本来の姿とは少し様変わりしてきましたが、終の棲家としてゆっくりと日々を過ごして頂けるよう、寄り添いながら一人ひとりにあった生活を支援している。新型コロナウイルス感染症の影響で、家族との外出や面会が制限されていますが、平屋建ての立地を活かし、ガラス越しに面会することができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の理念「笑顔あふれる暮らし」を念頭に、職員はいつも笑顔で利用者のケアに臨むことを心掛けていて、訪問調査時も利用者へ寄り添い優しく穏やかな接し方をしている様子が窺えた。運営推進会議は書面開催であるが、利用者家族全員に開催通知を送るようにして、会議の委員だけでなく、半数以上の家族からも様々な意見や感想などが届くようになっており、その後の運営やケアにできるだけ反映するよう努めている。2021年度に「重度化した場合における(看取り)指針」を作り、正看護師が配置され看取りの体制を整えた。看取りの計画を立てる前に老衰で亡くなった利用者はいらるが、計画に添った看取りの経験はしていない。管理者も職員も住み慣れた場所で利用者を看取することに前向きであり、職員が外部研修にも参加している。毎月のミーティングでは、ほぼ全職員が参加して連絡事項や改善提案や利用者の状況等について話し合っている。会議の場では、職員からの発言も積極的に行われ活発な議論がなされている。管理者は、権限の範囲内で物品の購入や勤務体制等の変更を適宜行っている。管理者や職員間の関係性が良好であることが窺え、事業所全体として利用者本位のケアの実践に向けて熱心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念の下、グループホーム独自の理念「笑顔あふれる暮らし」を共有し、入居者は勿論、我々職員自身も笑顔で過ごせるように実践している。 | 法人の施設運営理念及び基本方針を基に、7年前に管理者と職員で話し合い、事業所独自の理念「笑顔あふれる暮らし」を策定した。その理念を念頭に、職員はいつも笑顔で利用者のケアに臨むことを心掛けていて、訪問調査時も利用者に寄り添い優しく穏やかな接し方をしている様子が窺えた。ただ、ここ数年利用者の重度化が進み、利用者の表情が乏しく笑顔があまり見られなくなっていることを管理者は憂慮しており、職員みんなで、より一層明るい雰囲気作りに努めるようにしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の小学校との交流会や、中・高校生のボランティアサーマースクール・マイチャレンジの受け入れ等実施していたが、新型コロナウイルスの感染予防の為交流等は行えていない。 | 新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ感染症とする)が流行してからは、感染予防のため、毎年行っていた地域の小学校との交流や中・高生の職場体験等の活動の受け入れが出来なくなっている。事業所のある地域は、民家が点在し遠く離れているため、なかなか地域との交流が持ちにくい状況にあるが、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所(以下、「隣接する事業所」とする)に近隣住民の利用者が増えてきていることから、管理者は今後の交流に繋げていきたいと考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 小学校との交流会や中・高校生ボランティアサマー等で、認知症を有していても会話やレクを楽しめたり昔の知恵を教わることができ、尊敬する大先輩であることを伝えてきた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナウイルス感染防止の為、書面開催となっている。2/3のご家族から返信が届くようになっている。 | 運営推進会議は、コロナ感染症の流行以来、感染予防のため書面開催(年6回)となっている。委員である自治会役員、民生委員、市の担当課職員、地域包括支援センター職員の他に、利用者家族全員に開催通知を送るようにしていて、会議の委員だけでなく、半数以上の家族からも様々な意見や感想などが届くようになっている。寄せられた様々な意見等は、できる限り運営やケアに反映するようにしていて、開催議事録として良くまとめられている。 | 会議の委員や利用者家族の意見を関係者全員で共有し理解を深めることは大切なので、今後、前回会議の議事録(全部でなく概略でもいいので)を、次回の会議開催通知と一緒に送ることを検討していただきたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村との連携はとれている。 | 市の担当課職員からは、運営推進会議の議題についての意見や感想の他に、各種情報等が送られてきている。コロナ感染症対策として、市からは時々マスクや使い捨て手袋等が配付されている。相談員の訪問が途絶えており、利用者は外部との交流がほとんどできない状況にあることから、事業所としては相談員の訪問再開を強く望んでいるが、市としてはまだ時期尚早との判断とのことである。 | 訪問調査の際に、管理者から「市から感染予防対策の通知等は来るが、他の事業所の予防対策や感染後の対応状況等についての情報がないので、対応してもらえると有難い。」との要望があった。多忙な業務や情報保護等の点から、なかなか実現は難しいと思われるので、今後も市に働きかけると同時に、事業所独自で情報収集に更に力を入れていくことが期待される。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3カ月に1度、身体拘束廃止会議を実施し、身体拘束をしないケアを実践している。 | 「身体拘束廃止委員会」の会議を、3か月に一度開催している。勤務時間外に2時間程度かけ、身体拘束をしないケアが実践されているか現状の確認をし、「スピーチロックとは？」等のテーマを決めて学習している。「虐待の芽チェックリスト」を職員各々に取り組んでもらい、後日集計結果をもとにミーティングを行っている。職員のほとんどが会議に出席しており、事業所も時間外手当を支給するなど、事業所全体としての意識の高さが窺える。スピーチロックに関しては、職員は十分理解しているものの、出勤職員が手薄の時はつい「制止の言葉」が出てしまう現実を認識しており、職員相互に気をつけあうことを心掛けている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止マニュアルを参考に、身体的拘束廃止会議内で虐待についてもミーティングを行い入居者の全身状態を共有し職員間の連携を図り、職員の精神的な変化にも気づけるようにしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 運営推進会議の議題にも取り上げたり、勉強会の中で学ぶ機会を設けている。今後も積極的に学習していく。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に説明し、不安等への対応も行っている。入居してからも新たに出て来た疑問点に関しても、その都度対応できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や電話連絡で状況報告をしながら要望等を伺えるように努めている。入居者本人の要望等の確認は中々出来ない状況。 | 重度化が進み、意思疎通が難しくなっている利用者が増えているが、職員は表情やささやかな動き、態度等から、利用者の思いや要望等を把握するよう努めている。また、コロナ禍のため家族の面会を制約せざるを得ないが、事業所が平屋であることを利用し、居室の窓ガラス越しに近くで顔の見える面会を行い、利用者と家族の要望に応じている。また、書面開催となっている運営推進会議の議題を家族全員に送付して、運営状況や利用者の様子を伝えると共に、意見や感想を返送してもらい、その後の運営に反映するよう取り組んでいる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回は、ほぼ全員参加でミーティングが行えている。ケアに関することや業務に関する話は出来ている。新型コロナウイルス感染防止についても継続的に行えるよう指導している。感染した場合の業務遂行に関しても協力を仰いでいる。 | 毎月のミーティングには、その時間帯に利用者のケアをしている職員以外の全職員が参加して、連絡事項や改善提案、利用者の状況等について話し合っている。会議の場では、勤務経験の長い職員も多いので、発言も積極的に行われ活発な議論がなされている。管理者は、管理者としての経験年数も長く、職員からの意見や要望等があれば、管理者権限の範囲内で物品や備品等の購入等も適宜行っている。また、コロナ感染症予防対策や看取り体制の構築等についても、職員と十分話し合いをしたうえで実践している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個別面談の機会を設け意向の確認をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修受講に関して前向きに検討し、働きながら職員同士で学びの機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナウイルス感染防止の為、他事業所や同法人の施設との交流は控えている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご本人の好みや不快に思う事を確認し過ごしやすくてできる工夫をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の困りごとや不安に関して傾聴し、要望に関して出来る限り対応できるよう心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人とご家族のニーズを見極め対応できるよう他施設への申請やサービスの説明もしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者それぞれの体力や能力の差はあるが、その方が出来ることを継続できるよう、集団生活では無く、共同生活を送れるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族対応で通院できる利用者も少なくなっているが、往診時の状況や変化について細かく説明し共有できるよう努めている。ご家族が来所時には日頃の様子を報告し毎月の様子をスナップ写真と一緒に送付している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 身体機能の低下に伴い家族との外出の機会も減っている。新型コロナウイルス感染予防の為小多機利用者との交流も減っている。 | 家族との面会を制限せざるを得ず、利用者の身体的状況が低下しているため、家族との外出や事業所の行事としての外出の機会がほとんどないのが現状である。隣接する事業所に通っていた利用者もいるので、時々交流することがあったが、感染予防のため現在は行われていない。今後、どのようにして馴染みの人や場との関係継続をしていくのか、職員も頭を悩ませている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | その時々々の状況に合わせ、座席の変更をしたり入居者同士で関われる機会を作れるようにしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院時や他施設への入居当初はご家族の不安もあるため、随時相談等の対応を行う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 意思疎通の困難な入居者が多く、出来ることも減っているが、歌を唄うことは出来たり、職員がフォローすることでぬり絵や折り紙などを楽しむことも出来ている。 | 利用者の重度化が進み、身体的機能の低下や意思疎通の困難性が高まっているが、職員はできるだけ利用者に寄り添い、表情や態度等から利用者の思いや希望、意向を把握するよう取り組んでいる。また、様々な声かけを行って、利用者自身の言葉を引きだすよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族やご本人から、生活歴や今までの環境、趣味などの情報を得ている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個別ケアを中心に、一人ひとりの一日の流れを把握し、心身状況の変化に対応できるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画は、日々の申し送りやミーティングで現状や困難事項について話し合い情報を共有しながら作成している。継続的に必要なケアや対応の変更が必要な事柄についても相談しながら実践できている。 | 介護計画作成担当職員は、毎日の申し送り事項の確認、毎月のミーティングにおける職員の様々な意見、モニタリング結果、家族からの意見や要望等を把握し、利用者の現在の状況や課題・困難事項を見定めたくえで、介護計画を作成している。作成担当職員も、日常のケアを行い宿直も担当しているが、宿直専任職員から利用者の夜間の状況を詳しく聴くようにしている。利用者の状況の変化によってケアや対応の変更が必要とされる場合には、職員や家族等と十分話し合い、利用者にとって最も適切な介護計画となるよう取り組んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎月行うミーティング、業務日誌、申し送りノートを活用し職員間での情報共有は出来ている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ニーズや状態の変化に伴い、他施設への検討や医療との連携も図れるよう往診の依頼も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の小学校との交流会や、中・高校生との関り、ボランティアの慰問、蕎麦打ち等を実施し社会交流の機会を設けていたが、新型コロナウイルス感染予防の為交流等は行っていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご家族の協力を得ながらかかりつけ医への受診を行っている。細かい情報が必要な場合は日々の状態を記入し主治医へ情報提供している。家族対応での受診が困難な場合は職員が対応し、通院が難しくなってきた方には往診も依頼している。 | 機能低下が心配される利用者が多くなり、重度化や終末期を迎えることを見据えて、利用者の全員が往診が可能な事業所関連の医院をかかりつけ医にしている。家族対応、職員対応、往診等で月1回の受診をしている。受診結果は業務日誌に記載し、職員全員で情報を共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員へ状況報告をし指示を仰ぎ対応できるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時には病院関係者との情報交換を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に、重症化や終末期の意向をご家族に確認し、看取りに関しても説明し、同意を頂いている。看取り希望時には同意書を作成している。 | 2021年度に「重度化した場合における(看取り)指針」を策定し、正看護師が配置され看取りの体制を整えた。看取りを希望する利用者もいる。看取りの計画を立てる前に老衰で亡くなった利用者はいが、計画に添った看取りの経験はしていない。管理者も職員も住み慣れた場所で利用者を看取することに前向きであり、職員が外部研修にも参加している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の連絡体制は整えている。入居者の状態を把握し急変時の対応が出来るよう情報の共有を行い備えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災を想定した訓練が中心となっているが、水害を想定し、避難場所でもある系列施設への移動訓練も引き続き計画している。緊急時の連絡網を活用し連絡体制も再確認している。 | 昨年度の外部評価調査後に立てた目標達成計画に基づいて、水害を想定した避難訓練を行なった。今までの訓練では利用者全員が訓練に参加することはなかったが、今回は夜間を想定し全員が車に分乗し、途中道路の冠水の恐れがある箇所を避けて安全な経路で避難場所へ移動した。持ち出す荷物や事業所に残すことになる職員個人の車をどうするか等、実際に訓練をして気がつく事は多く、記録して活かしたいと考えている。 | 事業所近くに川があることから、今回の水害想定訓練の実施で得られた課題については、対応方法等について検討し、次回の訓練に活かすよう取り組んでいただきたい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人を尊重し、その時々の変化などに気をつけながら言葉かけや対応を行っている。 | 職員は利用者を人生の先輩として敬い、昔の生活の知恵を学ぶ姿勢で接している。思いが言葉で出せない利用者の表情をよく観察して、利用者の目線で察してトイレにさりげなく誘導している。事業所便りに載せる利用者の写真については、事前に家族の許可を取っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人の思いや希望を表現し易いように傾聴しながら言葉を引き出せるように寄り添っている。失語がある方でもこちらから誘導するのではなく、選択できるような言葉かけを行い思いを表現できるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを大切に、起床時間や就寝時間、排泄の決まりも無く過ごして頂いている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みの服を選んで着たり、2カ月に1度は、事業所に来てくれる理美容の方に散髪してもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事はそれぞれのペースで食べられている。一緒に作業ができる方が減ってはいるが、食器拭きを手伝ってもらっている。 | 昼食と夕食は、隣接する事業所の専任職員が献立を作り、材料を購入して手作りした副食がグループホームに運ばれている。利用者の機能に合わせておかゆにしたり、おかずをムース状や刻み等にしたり、とろみをつけるなどして提供されている。手術後うまく飲みこめなかったり水分を摂りたがらなかった利用者のために、職員が観察し情報を交換して摂取方法を工夫して、栄養や薬、水分が摂れるようになり、体力維持ができるよう支援に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりに適した量を配膳し、栄養バランスも考慮した献立になっている。摂取量や水分量のチェックも行い管理している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 拒否や抵抗がある場合は無理強いせず出来る限り毎食後口腔ケアを行い、義歯や口腔内の状態を確認している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導している。訴え時には都度対応し、立位が保てない方のみオムツ使用となっている。夜間は、入居者の動きに対応しトイレでの排泄を実施している。 | おむつ、リハビリパンツとパッド、布パンツとそれぞれの利用者の状況に合わせて支援している。機能低下は進んでいても利用者全員のトイレでの排泄を目指している。定時にトイレに誘導して便座に座る、濡れていればおむつやパッドの交換をする他、目線の動きから察知して誘導もしている。夜間はおむつをする利用者が一人増えるだけで、日中と同じように一人ひとりの動きに合わせて支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取や適度な運動、必要時には便秘薬を使用し排便を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 午後に入浴の時間を設け、一人の職員が準備、着脱、入浴、髪乾燥まで全てを行い、その方に合った時間配分で支援している。機械浴対応の方も増えている。 | 衣類の着脱の時に不穩になる利用者には職員2名で対応する時もあるが、浴槽に入れば歌が出て入浴を楽しむ事ができている。浴槽の内外に滑り止めマットを敷いて転倒しないよう配慮している。機械浴の利用者も増えているが、気持ち良く入浴できるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 部屋の温度や明るさの調整を行い、一人ひとりの就寝のタイミングに合わせている。巡視時には睡眠の妨げにならないように配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情報を確認し、全職員が把握に努めている。服薬の準備も全職員が責任を持ち行い、症状の変化等への観察も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 出来る行為が少なくなっている。下膳や食器拭きができる方には一緒に行ってもらっている。洗濯物を職員と一緒にたたんだり、歌や手遊び等のレクの時間も設けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 身体的な衰えと共にご家族との外出も機会が減っている。季節毎の外出も計画しているが、なかなか実行できなくなっている。庭の花々を眺めたり、散歩するなどの気分転換は日常的に行っている。 | コロナ感染症流行の影響や、利用者の身体機能低下の進行で、全員での季節毎の外出はできなくなっている。利用者の体調や体力に合わせて事業所の敷地内を職員と一対一で散歩をして、桜の花見をしたり、職員の植えた季節の花々を見たり、外気浴をしながら五感を刺激する機会を作っている。この11月には、外出可能な利用者と一緒に紅葉狩りドライブを企画している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理はご家族と事業所で行い、本人には現金は渡していない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 以前は手紙の支援も行っていたが、現在は書く行為が難しくなっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用のホールからは、庭の草花や蕎麦畑を眺めることができ、鳥たちの姿や鳴き声も感じられる。テーブルや席の配置にも配慮している。隣の和室ではソファーに腰掛けテレビを見られる場所となっている。 | 天井に明かり取りの大きな窓があり、ホール全体が明るい。その天窓からの日差しが強く、日除けに職員手作りのカラフルなターフがかけられている。日中ほとんどの利用者はホールでおしゃべりをしたり、体操や塗り絵をしたり、歌を歌うなどして過ごしている。壁には、利用者が塗った季節の花やカレンダーが貼ってある。夜間、自室のベッドの柵で怪我をしたり転倒の心配がある利用者のために、共用の和室を使用して、布団で寝られるように対応している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室とホールを自由に行き来し、横になったり雑誌を眺めたり、ぬり絵を楽しむことができる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族やペットの写真を飾ったり、好きなぬいぐるみをベッドに置き一緒に眠っている方もいる。好みの物をのち込んで頂けるようご家族にもすすめている。 | 居室には、カーテン、エアコン、ナースコール、洗面台が備え付けられている。ベッドは持ち込みだが、利用者はリースで介護用ベッドを使用している。利用者が衣類をたくさん重ね着したり、置いてある物で混乱することを避けるため、家族とも相談して居室に置く荷物は極力少なくしている。事業所が平屋なので、コロナ禍では居室の窓越しに直接面会して様子を確認することができて家族は安心していた。大きな字で書かれ、ふり仮名も付いたひ孫からの手紙が貼ってある居室もあった。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの表示や居室のドアにネームをつけて分かりやすくしている。 | | |